様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　６ 日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ１９９４９

研究課題名（和文）庶民信仰と浮世絵ー力士の表象を中心としてー

研究課題名（英文）Ukiyo-e and Beliefs of Common People in the Edo Period -Focusing on the Representation of Sumo Wrestlers-

研究代表者
大久保　範子（Okubo, Noriko）

岡山大学・社会文化科学学域・准教授

研究者番号：８０６２０２５２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：日本には様々な風習や伝承が存在するが、その起源や由来については明確な資料が確認されないまま漠然と受け入れられている例が多い。本研究は、そのような明文化されないものの庶民間で広く共有された信仰の実態について、浮世絵を中心とした視覚資料を手がかりに検証することを目的とした。力士の手形が縁起物として扱われるようになった過程、伊勢参りに基づく双六に道中の臨場感を高める場面描写や、移動の距離感を反映する工夫がみられる点、七福神の寿老人と福禄寿における混同と明確化といった江戸期に展開した庶民信仰の一端を、絵画資料を通じ具体的に示すことができた点が本研究課題の主な成果である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
日本には、招福や魔除けをはじめとし、現世をより良く生きるための様々な信仰が伝えられる。そのような信仰の形は、日本文化を語る上で重要な要素でありながら未だ明らかでない部分は多く、研究の必要性がある。本課題で取り組んだ力士の手形に関する調査及び研究は、当初の記録を目的としたものが次第に呪術的な色彩を帯び、信仰の対象へと転じていく過程が、現存する手形、浮世絵、文献を組み合わせることでより明確化された。本研究を通じ、視覚資料から現象を読み解く美術史的なアプローチを、従来文献を中心に行われてきた研究分野と組み合わせることでより発展させる可能性を改めて示すことができたと考える。

研究成果の概要（英文）：Various customs and folklore exist in Japan, but many of them are vaguely accepted without clear documentation of their origins. The purpose of this study was to examine the reality of such beliefs widely shared among the common people by using visual materials, mainly ukiyoe. Through the project, we were able to show the process by which wrestlers' handprints came to be treated as good luck charms, the depiction of scenes to enhance the realism of the journey in Sugoroku based on the Ise pilgrimage, the ingenuity to reflect the distance of the journey, and the confusion and clarification between the seven gods of good fortune, Jurojin and Fukurokuju. These achievements suggest some aspects of popular beliefs that developed during the Edo period.

研究分野：日本美術史

キーワード：相撲絵　庶民信仰　江戸時代　浮世絵　手形　伊勢参宮双六　七福神　おかげ参り

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

## １．研究開始当初の背景

⑴日本では日常の行事や風習の中に神仏信仰との結びつきがみられ、江戸時代には浮世絵などの絵画にも当時の庶民信仰の一端を示す例が描かれた。たとえば相撲は江戸を熱狂させた娯楽のひとつであるが、土俵入りや取組前後の所作には神道の儀式的な要素が残され、力士の錦絵や手形は魔除けや福を呼ぶ縁起物としてもてはやされた。

⑵相撲の体系的な歴史は『相撲大鑑』(常陸山、1909)、『江戸時代大相撲』(古河、1968)をはじめとした先行研究に詳しいが、相撲絵は長年主要な研究対象として扱われてこなかった。その理由として、相撲絵は役者絵や美人画など他の人物を主題とする作品に比べ、構図が限定的で様式展開に乏しい点、体躯表現が類型化している点などが挙げられる。申請者はこれらの特徴に注目し、主に様式の典型例と類型化が進んだ天明期から文化期(1804-1818)にかけての相撲絵について研究を行ってきた。

⑶一方、主要な形式から外れる作例は現在も十分な検討がされていない。当時の力士が潜在的に担っていた社会的役割は、現在私たちが持つ認識と隔たりがあることが予想されるため、申請者はこのような画題になぜ力士が選ばれた目的を明らかにすることが日本社会における相撲という大きなテーマを理解する鍵になるのではないかと考えた。

## ２．研究の目的

⑴本研究は、江戸時代に相撲や力士が社会的にどのような存在として受け入れられていたのかという疑問を探ることを端緒とし、現在にまで続く日本人と相撲というテーマの一端を美術の面から明らかにすることを目的としている。

⑵相撲は神道との繋がりが認められる一方で、庶民の娯楽としての色彩も強く、聖と俗という対照的な性格を有している。また江戸の武家社会において、風紀を乱すものとして幕府から度々苛烈な弾圧が加えられた歌舞伎とは異なり、相撲は優れた力士を抱えることが藩の名誉であるとされ、鍛錬のための手段として武士たちにも奨励された側面を持つ。このような聖と俗、支配者階級である武士とその被支配者階級である庶民という複雑な構造を持ちながら、特に矛盾なく人々に受け入れられているという点は相撲絵という画題を特徴付けるものであり、その構造を明らかにすることは日本文化の独自性を改めて示す好例となりうる。

⑶仏教や神道をはじめとした宗教の世俗化は、江戸時代の庶民文化を語る上で重要な要素であるが、多くは文献からのアプローチが多く、当時の世相や生活を描いた浮世絵は研究資料としてまだ十分に生かされているとは言い難い。また神道と相撲の関わりについては漠然とした部分が多く、浮世絵等の絵画に描かれた内容から宗教的な要素を帯びていく過程を明らかにしようと試みた。

　以上の通り本研究の目指すところは　江戸時代における庶民信仰について浮世絵を中心とした絵画資料からその実態や展開の様相を探ることである。とりわけ相撲及び力士の表象に焦点を当て、それらが文化面でどのような役割を担うようになったのかについて視覚の面から探ることである。

## ３．研究の方法

　本研究では解明のための手段として、大量生産・流通が可能であった浮世絵に着目し、表象としてあらわれた面から検討を行った。量産を前提とする浮世絵は、より多く販売するために購入者が潜在的に期待する形で描かれるため、当時の人々の間に存在した力士に対しての共通認識を探る大きな手がかりとなる。また視覚的な資料を伴う研究として成果を明快な形で示すことが可能であり、人文学や民俗学の既存研究と繋げることで、今後のさらなる発展が期待できると考えた。具体的には以下の５点について調査研究を行い、相撲が文化や思想の面でどのように展開したのかについて考察を行った。

⑴力士の手形に関し、実際に力士が押した現存作と文献上のみ残る記録について調査し、年代ごとの増減を確認するとともに、どのような目的で押されるようになったのかについて考証を行った。

⑵力士の手形が浮世絵の中に描きこまれた作例ついて調査し、その増減と年代ごとの構図の展開について考察を行った。

⑶力士以外の手形（例えば武将や神）が描かれた浮世絵の作例について調査し、力士の手形をモチーフとする作例との差異や制作の意図について詞書等に基づき考察した。

⑷力士の手形が現在のような魔除け・縁起物と転じていくことに関し、巨人力士の存在に注目し、当初の記録を意図したものが次第に信仰対象へと変化していく過程を明らかにしようと試みた。

⑸相撲と神道の関わり以外にも庶民信仰の世俗的な広がりを示す作例を収集し、調査研究を行った。

４．研究成果

⑴相撲博物館が所蔵する浮世絵を調査し、巨人力士に関する浮世絵及び手形の伝存作を整理するとともに年代の考証を行い、力士が手形を押す風習がいつ頃から定着しはじめたのかについて考証した。その結果、江戸勧進相撲が興行として定着した江戸中期以降、看板大関と呼ばれる体が極めて大きい力士が活躍するようになったことと深い関連が認められることが明らかとなった。文政、天保期の浮世絵には、赤い手形を複数枚押す巨人力士を描いたものがあり、背景の事物からこの時期までには縁起物として流通するようになっていたことが確認できた。

⑵力士以外の手形をモチーフとする浮世絵は、加藤清正や麻疹を退散させた神の手形をあらわしたものが安政年間以降散見される。これらの作品に関しては疱瘡絵、麻疹絵との関連が考えられ、護符に近い役割を担う浮世絵として版行されていたことが確認できた。

⑶所蔵品データベースを公開する国内外の美術館・博物館に関し、本研究に関連する浮世絵のリストアップを行った。同様に過去の展覧会図録及び先行研究を確認し、制作年代・所蔵先等について整理した。

⑷江戸勧進相撲関連の文献を調査し、手形の記録を抽出するとともに、何を目的として押されたのかについて整理し、年代ごとの展開を分析した。上記⑴、⑵、⑶の研究成果と合わせ、2023年に中山道広重美術館にて「浮世絵にみる江戸の庶民文化と相撲」、岡山大学文明動態学研究所（RIDC）のマンスリーセミナーにて「力士と手形−記録と魔除けの視点から−」を口頭発表した。

⑸上記⑴、⑶に関連し、文献・絵画資料にみる力士の手形に関する記録について論文化し、報告書としてまとめた。⑵の力士以外の手形（武将・神など）をモチーフとする浮世絵についてはさらなる調査研究が必要と判断し、今後の課題として取り組む方針である。同報告書には、今回の調査の過程で確認された相撲以外の庶民信仰に関する研究協力者の論考も含まれる。具体的には伊勢参宮双六についての考察、七福神のうち寿老人・福禄寿の混同と分化に関する考察、《おかげ参りの図》（岡山県牛窓神社所蔵）と同時期の絵馬との比較についての考察である。

以上、本研究を通じ当初の目的に到達することができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>大久保範子 | ４．巻<br>710 |
| ２．論文標題<br>勧進相撲と江戸の名力士たち | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>歴史研究 | ６．最初と最後の頁<br>76-87 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>大久保範子 | ４．巻<br>1 |
| ２．論文標題<br>文献・絵画資料にみる力士の手形に関する記録について | ５．発行年<br>2024年 |
| ３．雑誌名<br>「庶民信仰と浮世絵」報告書 | ６．最初と最後の頁<br>3-26 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>馬野琴巳 | ４．巻<br>1 |
| ２．論文標題<br>伊勢参宮双六に施された現実的要素とその機能について | ５．発行年<br>2024年 |
| ３．雑誌名<br>「庶民信仰と浮世絵」報告書 | ６．最初と最後の頁<br>27-83 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>松島沙樹 | ４．巻<br>1 |
| ２．論文標題<br>寿老人図・福禄寿図にみられる特徴と分類に関する一考察ー狩野養信画を中心にー | ５．発行年<br>2024年 |
| ３．雑誌名<br>「庶民信仰と浮世絵」報告書 | ６．最初と最後の頁<br>84-110 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>蓮池拓克 | 4．巻<br>1 |
| 2．論文標題<br>《おかげ参りの図》（牛窓神社）についてー同時期の絵馬と比較してー | 5．発行年<br>2024年 |
| 3．雑誌名<br>「庶民信仰と浮世絵」報告書 | 6．最初と最後の頁<br>111-117 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>大久保範子 |
| 2．発表標題<br>幕末明治期における相撲の神事化と勧善懲悪のイメージ |
| 3．学会等名<br>「ポストグローバリズム状況下における　国際秩序の表象と文化」研究会 |
| 4．発表年<br>2023年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>大久保範子 |
| 2．発表標題<br>浮世絵にみる江戸の庶民文化と相撲 |
| 3．学会等名<br>中山道広重美術館 連続講座（招待あり） |
| 4．発表年<br>2023年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>大久保範子 |
| 2．発表標題<br>力士と手形ー記録と魔除けの視点からー |
| 3．学会等名<br>岡山大学 文明動態学研究所 マンスリーセミナー |
| 4．発表年<br>2023年 |

〔図書〕　計1件

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>大久保範子 | 4．発行年<br>2024年 |
| 2．出版社<br>岡山大学日本美術史研究室 | 5．総ページ数<br>118 |
| 3．書名<br>「庶民信仰と浮世絵」報告書 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究協力者 | 馬野　琴巳<br>(Umano Kotomi) | | |
| 研究協力者 | 松島　沙樹<br>(Matsushima Saki) | | |
| 研究協力者 | 蓮池　拓克<br>(Hasuike Hiroyoshi) | | |

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|